

2025年(R7年)

5月

No. 394

ひとははこうしん



社会福祉法人 ひとは福社会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホムアド) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com

周辺の田んぼは田植えに向けて水が張られ始め、植え付けが終わった稲は力強く根付き始めています。新年度のスタートからひと月、皆さまお変わりありませんか。

今年折にふれてひとはフジシんで発信をしてきましたが、ひとはが歩みをはじめた40年の節目となります。ひとはが開所したのは国際障害者年から4年後の1985年で、全国的に無認可作業所が立ち上げられ始めた時期でした。地域に暮らす一人の仲間と通う場、社会とつながりを持つ場として開所し、少しずつ仲間の輪が広がって

きました。ここで、なぜ「ひとは」と名付けられたのかをおさらいします。大きくは2つの意味があります。一つは、大樹にある無数の葉と、地域に暮らす一人ひとりを掛け合わせ、一枚一枚の葉(一葉)にも私たち一人ひとりにも大切な役割があり、それぞれかけがえのない存在であるという思いが込められています。もう一つは「人は」どうあることが大切かなど、人としての生き方、尊厳などを考え、問い続けていくことが「ひとは」であるという思いが込められています。40年経った今も、私たちは名前に込められた使命、役割を果たしているかを常に点検をし、これからも誰もが共に暮らせる地域づくりの実現を目指していきます。皆様の変わらぬご支援、よろしくお願ひいたします。

(理事長 佐竹正亮)

あたらしい仲間たち

名前 竹貞心美
所属 ひとは工房ひとは窯
好きなこと
YouTubeで
ヒカキンをみること

名前 内藤麻妃
所属 ひとはぼっこ
少し自慢できること
観葉植物を10年以上
枯らさず育てています。
(水やりは週間に1回です笑)

ひとは館 20周年記念イベントを開催しました

4月19日、最初のお客様は2羽のツバメ。追い出そうとしていると、後から来られたお客様に「お祝いに来たんだね。」と声をかけられました。ツバメがお客様を呼び込んだのが、それをき、かけにどんどんあいす待ちの列ができ始めました。列の中には歴代の縄文あいすに関わったスタッフもこれまでにひとはに縁のある方たちの顔もちらほら。皆さんそれぞれに同窓会さながら話に花が咲いていました。

実は私も勤続20年を迎えようとしています。このタイミングで偶然にも担当として関わっており、同じ年月を重ねてこられたのは、縄文あいす同様にご縁のある方々に支えていただいたからこそだと感謝の気持ちでいっぱいです。これからも末永くよろしくお願ひいたします。
(ひとは工房 蔵下美穂)

令和6年度 ひとは福社会後援会会計報告

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

収入の部		支出の部	
会費 408名(法人含む)	1,605,125	ひとは福社会へ寄付	600,000
冊子収入	500	役員費(切手代)	665,011
利子	45	事業部工賃(いきがい)	35,000
前期繰越金	92,808	事業部工賃(ひとは窯)	35,000
		事業部工賃(あつぷ)	35,000
		印刷代他	207,813
		小計	1,577,824
		当期繰越金	120,654
合計	1,698,478	合計	1,698,478

担当: 岡川



「カッコ良かった」

余暇活動で紅白歌合戦のDVDを全監賞中、「GLAY」が登場。作業所の広いフロアに大きなスクリーン、まさにコンサート会場さながらの臨場感でした。それに触発されるように、立ち上がり拳を突き上げる中田さんの姿。リズムに合わせてノリノリの姿は、本当にカッコ良かった。「GLAY」より中田さんがカッコ良すぎて大きな拍手を送りました。私も楽しませてもらったよ！
(ひとは作業所 今井志保子)

「笑顔溢れる」

水田淳也さんの支援計画の面談にて、お母さんが来られ、淳也さんがホーム玄関に案内しました。お母さんに「どうしたらいい？」と聞かれると困惑した様子でしたがスタッフが「お母さん外靴よ」と声をかけると「脱ぐ」と言いお母さんにどうしたらいいかを伝えることができました。作業所の新年会で披露したギャグをお母さんに披露したり、家で過ごしていた時の様子を話してくれたり。お母さんが大好きな淳也さん。笑顔溢れる面談でした。
(共同ホーム 菅 凌太)

ひ

と

は

の

日

々

私も勤め始めて何年になるのでしょうか。はじめの頃の懇親会で、文尚さんから3人娘と知付けられ、今では初代3人娘の中で私一人となり頑張っています。
朝ホームに行くとき、コーヒはまた？と聞く人、もうすでに仕事に行きたくてカバンを持っている人、楽しく笑いながら元気をもらうひとときです。疲れる時もあるけれど、もう少し頑張りたいと思います。
(平野 和代)

これはフライングを書く日か来ると思い、書き留めていらっした、ホーム平野さんの原稿です。「朝ごはんはし、かき食べんと元気に仕事できんよ！」「待、とさんさい、美味しいコーヒ作るけんね！」と当たり前の言葉を毎日笑顔と元気な声で言われると、ほとんどのきららがホッとした表情になります。夜勤明けのスタッフへの体調を気遣った声かけ、力の入りすぎた支援には「頑張れすぎよ」と一言。ホームができたのは2002年。平野さんはこの3月で丸23年勤められ、退職されました。
(共同ホーム 井上 美恵)

— ひとは40周年を前に —

私がひとはと出会ったのは30代半ばの頃でした。戸島の古民家で開所されていた無認可作業所で、文尚さん、3人の女性スタッフ、重廣さんたちの一員に加えてもらいました。各種の内職作業、みそや海産物の注文販売、休日にはいろんな場所でのバザーに出かけて行きました。毎日が新鮮で最初に感じた不安は日毎に楽しさになり、ひとはの魅かに惹き込まれていきました。募金活動により大勢の人に支えてもらい、長田の地に拠点が移った時には、大きな喜びと共に責任の重さも痛感しました。神倉でのふれあいハイキング、800名の参加者で山がふるえたこと、また人間ホールではディスコで老若男女みんなで踊った夜のことは忘れられないイベントです。私の最後の活動の場は、行列のできたアイスクリームの店ひとは館です。看板娘達と一緒に「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」と接客しました。忙しい日々でしたが活気と喜びがあふれていました。楽しかったですね。たくさんの出会いと感動と多くのことを学ばせてもらった19年間は大切な時間であり2回目の青春時代だったと思っています。感謝しています。
(南部 孝美)

編
集
後
記

20代から乗っていたオートバイを、この度手放すことにした。ツーリングで中国地方のいろいろなところに出かけた。真夏の大山は、下界と比べて気温が10℃も低く、快適だった。三瓶山から帰る道中でエンストしてしまい、予備タンクでヒヤヒヤしながらガンソクスタントを探して回ったこともあった。バイクに乗って走っている時は風になれたような感覚で気持ちすがすがしく晴れた。信頼できる知人に譲るので安心して手放すことができたが、走って行く後ろ姿を見ると、やはり切ない気持ちになった。(白井 くに)

あなたとのつながりが、ひとはを^{ささ}支えてきました

^{なかま えがお とど}仲間の笑顔を届けたい
「あんたに^{であ}出会えてよかった」と言われるように

^{なかま}仲間のつぶやきを届けたい
「わしはわし^な並みでえかろうがい」という自分らしさを

^{なかま ほこ とど}仲間の誇りを届けたい
「お母さんがせつかく^{かあ}生んでくれたんじゃけん、
^{じまん く}自慢して暮らす」という^{そんげん}尊厳を

おかげで、ひとはは、「^{だれ}誰もがかけがえのない^{にんげん}人間であるという^{ぶんか}文化」
を^{はっしん つづ}発信し続けることができます。

^{しゃかい ふくしほうじん}社会福祉法人ひとは福祉会
^{こうえんかいじむきょくいちどう}後援会事務局一同

^{ねんかいひ}年会費

^{こじん ひとくち}個人 1口 2,000円

^{ほうじん ひとくち}法人 1口 10,000円

ひとは^{ふくしかいこうえんかい}福祉会後援会

^{にゅうかいもうしこみしょ}入会申込書

No. _____

令和 年 月 日

ひとは福祉会の願いに賛同し、後援会に加入して「ひとは」と共に“^{だれ}誰もが^{とも}共に暮らせる^{しゃかい}社会を”
をめざします。

令和7年度会費（^{くち}口 ^{えん}円）を納め、入会を申し込みます。

^{し めい} 氏名	
^{じゅう しょ} 住所	〒
^{でん わ} 電話	

切り取り線

^{りょう しゅう しょ}領収書

令和 年 月 日

様

(^{くち}口) ^{えんや}円也

ただし、ひとは福祉会後援会令和7年度会費として

ひとは福祉会後援会事務局

^{ねんかいひ}年会費 ^{こじん ひとくち}個人 1口 2,000円 ^{ほうじん ひとくち}法人 1口 10,000円

(何口でも結構です。)

尚、郵便振込みをご利用の場合、振込票を申込書にかえさせていただきます。